

事例項目	01 障害の特性理解・実態把握 02 個に関する指導 03 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」
概要	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成に向けて
事例提供校	高校： 西部地区 全日制 特支： 袋井特別支援学校

事例の内容	高校からのリクエスト
	・配慮を必要とする生徒について、指導の充実を図るため「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成を検討しています。どのように作成し、どう活用していけばいいですか。
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）
	・個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成方法や活用について、情報交換会を実施しました。中学校からの連携シートが上手く引き継がれずに、これまでの合理的配慮が受けられないケースが少ない現状がありますが、大学受験や卒業後の教育的支援を見据え、作成していく必要性を伝えました。生徒の実態や必要な合理的配慮を整理することや、PDCA サイクルで指導目標や指導内容などを捉えていくことで、当該生徒の特性を関わる教員で正しく共有理解するツールにもなる、ということも伝えました。作成するにあたり、保護者の理解を得ていくことも必要になりますが、全て条件が揃うのを待つ必要はないことや、実際に今の時点で作成の必要性があるのか判断に迷う状況であっても、必要性を感じた教師が準備を進めていくところから踏み出してはどうか、ということも伝えました。

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	・進学校の特色として、生徒は学力を積む力は持っているため、入学後しばらく経たないと問題に気付けないケースがあります。生徒はプライドもあるため、大人の支援や困りごとへの介入などが難しいこともあります。家庭の理解も大きく関係してきます。このような現状がありますが、今後高等学校の教員も、特別支援教育や合理的配慮の一定の理解が必要となります。それには特別支援学校との連携が必要不可欠だと考えます。
	特別支援学校 担当者のコメント
	・この情報交換会には高等学校の特別支援教育コーディネーター、保健課長、養護教諭が参加をしました。実施後は相談体制が整い、個別の教育支援計画作成の進捗状況やその後の生徒の様子も継続的に確認することができています。学校間交流でも関わりがある学校同士なので、今後もこの連携を深めていければよいと考えます。

まとめ
・今後も連携を深めていくことで、適切な指導や必要な支援の継続ができると感じます。また、合理的配慮を含む、特別支援教育に対する教職員への理解が進むことで、他の多くの生徒にとってもより学びやすい学校環境となっていくことと思います。

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。

事例項目	01 障害の特性理解・実態把握	03 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」
	05 学校の支援体制づくりのサポート	
概要	個別の教育支援計画の作成、活用に関する相談	
事例提供校	高校： 東部地区 全日制 特支： 伊豆の国特別支援学校	

事例の内容	高校からのリクエスト
	・「個別の教育支援計画」を効果的に活用するにはどうしたら良いでしょうか？
事例の内容	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）
	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校を訪問し、授業参観や情報交換を実施しました。 ・「個別の教育支援計画」作成、活用における大切な視点について主に以下2点を助言しました。 <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒自身が一緒に目標や支援内容等を考えることで、自己理解や支援を求め受ける良さの実感につながり、自己発信していけるようになる。 ② 関係機関との連携が課題解決につながる。卒業時には、「個別の移行支援計画」として進路先にも引継ぎ、関係機関と連携した支援が継続されることで生徒が安心して過ごせる。 ・「個別の教育支援計画」の書式について提案しました。

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・提案された「個別の教育支援計画」は、情報が一つの書式に整理され、校内だけではなく、スクールカウンセラーや進路関係者等とも情報共有しやすいと感じました。 ・学校や生徒の状況に応じた助言が受けられたので大変参考になりました。また、自校の取組の良さも確認できました。これまで、教員の経験と感覚に頼った支援が中心でしたが、特別支援学校と連携することにより、支援の在り方や方法の見直し、関係機関との情報共有、「切れ目のない支援」の実現などが自信をもってできそうな気がしています。 ・今後も様々なことを気軽に相談できるよう、継続的、計画的に連携していけると良いです。
センター的機能を活用した感想	特別支援学校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の教員が生徒を理解し寄り添う姿勢を大変大事にされており、多くの生徒が相談しやすい環境になっていると感じました。教員の思いや実践が、生徒を中心としたチームとしてより機能するよう「個別の教育支援計画」の見直しから行いました。書式を整えるだけではなく効果的な活用となるように今後も情報交換を継続し、支援方法や関係機関との連携構築等について助言しながら共に充実した支援体制を目指していきたいと考えています。

まとめ
<p>「個別の教育支援計画」を本人、保護者、関係機関で共有しながら、活用や定期的な見直しをすることで、ライフステージに応じた適切な支援を受け、本人が力を発揮することができます。本人を中心に効果的な支援方法を蓄積し、関係機関と役割分担しながら一貫したチーム支援をすることで継続的な支援、本人発信の合理的配慮につながっていきます。高等学校と特別支援学校が連携を継続し、地域、学校、生徒に応じた最適な「個別の教育支援計画」の活用方法をみつけていきましょう。</p>

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。

事例項目	01 障害の特性理解・実態把握 04「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」05 学校体制づくりのサポート
概要	「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成に関する相談
事例提供校	高校： 東部地区 全日制 特支： 東部特別支援学校

事例の内容	高校からのリクエスト
	・指導の充実を図るために「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成するとよいと聞きますが、そもそも二つはどのようなものでどう作成し、どう活用すればよいのですか。
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）
	<p>(1) 個別の教育支援計画 生活全般にわたるナビについて</p> <p>障害のある生徒一人一人の教育的ニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えの下に、福祉、医療、労働等の関係機関との連携を図りつつ、乳幼児期から学校卒業後までの長期的な視点に立って、一貫して的確な教育的支援を行うために、障害のある幼児児童生徒一人一人について作成した支援計画です。</p> <p>(2) 個別の指導計画 学校生活のナビ</p> <p>生徒一人一人の障害の状態等に応じたきめ細かな指導が行えるよう、学校における教育課程や指導計画、当該幼児児童生徒の「個別の教育支援計画」等を踏まえて、より具体的に幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法等を盛り込んだ指導計画です。</p> <p>1番のメリットは、チーム支援が成立することです。どの教員も同じように支援してくれると生徒が安心感を持ちます。引継ぎの資料となり、一貫性ある支援を行うことができます。</p>

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	・効果があるのはわかりますが、もう少し簡単にできるのであれば、他の教員に協力を得られそうに思います。
	特別支援学校 担当者のコメント
	<p>PDCA サイクルの支援が効果的ですが、特に「Action がだいじ」で考え、作成にばかり時間を費やすことがないようにしたいです。作成と活用はセットです。気づきから支援・作成は、最短で行えるようにしたいです。用紙等がいろいろインターネット等で公開されています。全部記入するのではなく、できそうなプラン、アクションの数を増やし、有効な指導をたくさん成立させるとよいと考えます。</p>

まとめ
<p>「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」は、効果的に支援するためのツールの一つです。このツールを作成・活用すると、チーム支援がより機能し、障害のある生徒の困難さの減少につながります。長期的な計画である「個別の教育支援計画」を立ててから、学年・学期ごとの計画である「個別の指導計画」を立てるのが原則ですが、実態によっては「個別の指導計画」を先に立てることもあります。</p>

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。